

IV 作物別施肥基準

【花き】

- 1 施肥及び土壌管理上の留意点 IV 【花き】 - 1
 - (1) 施肥上の留意点 IV 【花き】 - 1
 - ア 切り花
 - イ 鉢物
 - (2) 土壌管理上の留意点 IV 【花き】 - 2

- 2 施肥管理に関する技術 IV 【花き】 - 3
 - (1) 日長条件ごとの窒素施用濃度がクルクマの貯蔵根肥大と開花に及ぼす影響 IV 【花き】 - 3

- 3 施肥基準 IV 【花き】 - 7
 - (1) 秋ギク (二度切り) IV 【花き】 - 7
 - (2) 秋ギク IV 【花き】 - 8
 - (3) 夏秋ギク IV 【花き】 - 9
 - (4) 夏秋小ギク (露地栽培・マルチ) IV 【花き】 - 10
 - (5) スプレーギク・秋ギクタイプ IV 【花き】 - 11
 - (6) スプレーギク・夏秋ギクタイプ IV 【花き】 - 12
 - (7) カーネーション (養液土耕栽培) IV 【花き】 - 13
 - (8) バラ (養液栽培・アーチング仕立て) IV 【花き】 - 14
 - (9) トルコギキョウ IV 【花き】 - 15
 - (10) ガーベラ (周年・少量培地耕) IV 【花き】 - 16
 - (11) グロリオサ IV 【花き】 - 17
 - (12) アルストロメリア (加温栽培) IV 【花き】 - 18
 - (13) カラー (3年据置) IV 【花き】 - 19
 - (14) デルフィニウム (灌水施肥栽培) IV 【花き】 - 20
 - (15) スイートピー IV 【花き】 - 21
 - (16) ストック IV 【花き】 - 22
 - (17) ハイブリッド・スターチス (3年据置) IV 【花き】 - 23
 - (18) ユリ (冷凍球を用いた周年栽培) IV 【花き】 - 24
 - (19) クルクマ IV 【花き】 - 25
 - (20) シクラメン (平坦地1) IV 【花き】 - 26
 - (21) シクラメン (平坦地2) IV 【花き】 - 27
 - (22) シクラメン (平坦地3) IV 【花き】 - 28
 - (23) シクラメン (平坦地4) IV 【花き】 - 29
 - (24) シクラメン・山間地 IV 【花き】 - 30
 - (25) ポインセチア (手かん水) IV 【花き】 - 31
 - (26) ポインセチア (エブアンドフロー) IV 【花き】 - 32

(27)	ハイドラングア (青系 1)	IV 【花き】	-33
(28)	ハイドラングア (ピンク系 1)	IV 【花き】	-34
(29)	ハイドラングア (青系 2)	IV 【花き】	-35
(30)	ハイドラングア (ピンク系 2)	IV 【花き】	-36
(31)	ポトス (施設栽培 1)	IV 【花き】	-37
(32)	ポトス (施設栽培 2)	IV 【花き】	-38
(33)	シンビジウム (山上げ促成栽培)	IV 【花き】	-39
(34)	デンドロビウム (山上げ促成栽培)	IV 【花き】	-40
(35)	ファレノプシス (リレー栽培)	IV 【花き】	-41
(36)	パンジー	IV 【花き】	-42
(37)	マリーゴールド	IV 【花き】	-43
(38)	アンスリウム	IV 【花き】	-44
(39)	ホオズキ	IV 【花き】	-45
(40)	ケイトウ	IV 【花き】	-46

1 施肥及び土壌管理上の留意点

(1) 施肥上の留意点

ア 切り花

- ア) 花きの施設土壌では pH、EC の測定だけでは残存養分の推定が困難な場合が多いため、作付け前に土壌診断により無機態窒素、可給態リン酸、交換性塩基類等を測定し、窒素、リン酸、カリウム及び石灰質資材の施用量を決定する。
- イ) 作物の養分吸収特性を考慮して、基肥施用量、1 回当たりの追肥施用量及び回数を決める。適量を超えて施用しても、収量は増加しないばかりか品質の低下を招くので、栽培期間中土壌の pH、EC を定期的に測定し追肥に反映させる。
- ウ) 土壌養分に応じた施肥管理を実施して、塩類集積が生じないように心がける。塩類集積土壌では、除塩対策としてイネ科作物の導入、表土の除去などを実施する。
- エ) リン酸蓄積土壌ではリン酸の施用量を基準量よりも減らす。可給態リン酸が 200mg/100g 以上の土壌ではリン酸の施用を無施肥とし、100~200mg/100g では基準量の 1/2 程度とする。
- オ) カリウムは、窒素以上に吸収量が多いため不足しないよう留意する。また、塩基バランスが崩れると養分吸収に影響を与え、生育不良となることが多いので、適正になるように調整する。カリウム蓄積土壌においては、カリウム含量の低い有機質資材を施用するとともに施用量を控える。著しいカリウム蓄積土壌では無施用とするとともに、除塩対策を行い、カリウムを適正濃度に維持する。
- カ) 微量要素の施用については、過不足とならないように留意する。液肥による低濃度でのかん水施肥が安全である。

イ 鉢物

- ア) 一般に鉢物は、かん水量が多く肥料の溶脱量も多いため、養分吸収量に比べ施肥量の割合が多い。緩効性肥料、液肥、有機質肥料を効率的に利用し、鉢内の養分濃度を適正に維持するとともに、できるかぎり肥料成分の溶脱を減らす。
- イ) 鉢物用培土としては保肥力があり通気性・保水性を確保できる培土が望ましい。この条件を満たせるよう複数の資材を選択し混合する。
- ウ) 緩衝能のない軽石、砂、パーライトなどのような培地では肥料がダイレクトに効き、濃度障害をおこしやすいので注意する。肥効調節型肥料又は緩効性肥料と液肥を組み合わせ効率的な施肥を行うか、有機質肥料を用いる場合、1 回の施用量に留意する。
- エ) 観葉植物、鉢花類、ラン類いずれも生育及び養分吸収パターンにあわせた合理的な施肥管理を行う。
- オ) 仕上げ鉢では、鑑賞期間中も肥効の継続が期待できるため、緩効性肥料を用いることが望ましい。

(2) 土壌管理上の留意点

- ア 露地、施設土壌ともに地力増加のため、堆肥、稲わら等の有機質資材を県の施用基準に基づいて施用する。その場合、有機質資材の肥効率を考慮して減肥する。
- イ 蒸気消毒等で土壌消毒を行う場合、消毒前に家畜ふん堆肥等を施用するとアンモニア態窒素が増加集積するので消毒後に施用する。
- ウ ロータリ耕うんを続けたほ場では耕盤が形成されやすいので、数年ごとに深耕ロータリやバックホーによる深耕を行い、さらに有機物資材を補給し、下層土の物理性の改良を図る。
- エ ボリュームだけでなく、茎葉のバランスとともに日持ちも優れた高品質の切り花、鉢物生産を行うため、施肥の効率化を図って適正施肥量を守るとともに、地上部だけでなく地下部の環境管理にも留意する。

2 施肥管理に関する技術

(1) 日長条件ごとの窒素施用濃度がクルクマの貯蔵根肥大と開花に及ぼす影響

球根植物であるクルクマは、通常 2～3 月に球根を定植し、5 月下旬～10 月上旬まで採花し、株の地上部が枯死した 12 月以降に新球を掘り上げ、次作に用いている。球根は、根茎に貯蔵根が着生した形態をしており（図IV-花-1）、重いものほど、開花が早く、総開花数も多くなる。このため、切り花及び鉢花いずれの栽培であっても、根茎と貯蔵根を合わせた球根重量の大きいものが求められる。そこで、球根重量を大きくするための施肥管理方法を検討した。



図IV-花-1 クルクマの球根

クルクマの貯蔵根の肥大には窒素吸収が影響すると考えられ、日長条件が変わることでクルクマの生育相の転換が引き起こされ、窒素要求量が変わることに着目した。クルクマは長日期に次々と開花した後、限界日長 13 時間以下の短日条件で貯蔵根の肥大が促進するとされている。切り花生産と球根生産の両立を図るため、限界日長の 13 時間を境に長日期と短日期でそれぞれ試験区を設定し、生育、開花、球根形成に最適な窒素施用量を日長条件別に調査した。

ア 材料及び方法

ア) 施肥管理と日長条件

施肥は 4 月 15 日の定植後から、窒素濃度を段階的に変えた液肥を用いた。日長条件は、定植日から 9 月 15 日までを長日期とし、以降は日長が 13 時間以下となるため、9 月 16 日以降は短日期とし、長日期を試験 1、短日期を試験 2 とした。地上部が完全に枯死した 12 月 10 日以降に球根を掘り上げ、調査した。

イ) 施肥濃度の設定

窒素施用濃度は、0、15、30、60ppm の 4 区とした。試験区 1 は定植日から 9 月 15 日までをこの 4 区の設定で施肥し、9 月 16 日以降は 30ppm 一定で管理した。一方、試験区 2 は、9 月 15 日までは 30ppm 一定で、9 月 16 日以降を上記の 4 区で管理した。

ウ) 調査項目

ほ場では立茎数、展開葉数、開花数を調査した。採花した切り花では葉数、花茎長、花茎径、花序の長さ、花序の幅、苞葉数を調査した。12 月の枯死後は、地上部、根茎、貯蔵根に分け、60℃で 3 日間乾燥後、部位別にその重量を測定した。

イ 結果及び考察

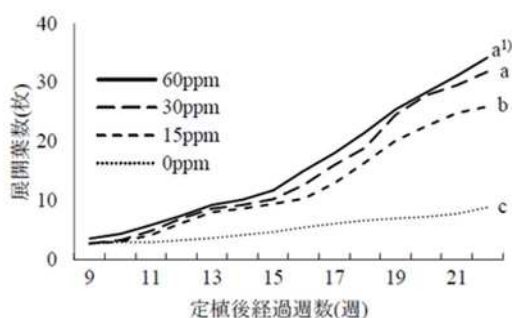
ア) 試験 1 長日期における窒素施用濃度が切り花の収量・品質及び地下部の生育に及ぼす影響

試験期間中の展開葉数の推移を図IV-花-2、開花数の推移を図IV-花-3 に示した。展開葉数は 30ppm までは濃度が高いほど増加した。一方、開花数は 0ppm 以外の濃度では同等となった。

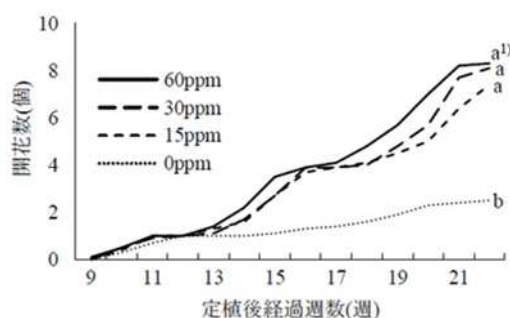
切り花品質は表IV-花-1 に示した。一番花の花茎長及び花序の長さは 0ppm 区が短くなり、それ以外の区は同等であった。30ppm 区、60ppm 区では展開葉数が増加して過繁茂になったのに比べ、15ppm 区が花径は太く花序が長くなっており、必要以上の施肥は不要であると考えられる。

長日期終了時（9月15日）の各部位の乾物重及び窒素含有率を表IV-花-2に示した。窒素施用濃度が高いほど地上部と根茎の乾物重は重くなったが、貯蔵根は15ppm区の乾物重が最も重くなった。貯蔵根の肥大に有意差があることから、長日条件下でも肥大を開始することが考えられた。12月の地上部枯死後の各部位の乾物重と窒素含有率を表IV-花-3に示した。窒素施用濃度が高い区ほど地上部乾物重が重くなった。根茎の乾物重も30ppmまでは施用濃度の上昇につれ増加した。貯蔵根の乾物重は0ppm区以外は違いは無かった。

表IV-花-4は総開花数、根茎数、乾物重比（貯蔵根／根茎）、及び根茎1球当たりの貯蔵根乾物重を示した。総開花数及び根茎数は30ppmまでは増加する傾向がみられた。



図IV-花-2 窒素施用濃度と展開葉数の推移



図IV-花-3 窒素施用濃度と開花数の推移

表IV-花-1 切り花の品質（～9月15日）

N濃度(ppm)	葉数(枚)	花茎長(cm)	花茎径(mm)	花序の長さ(cm)	花序の幅(cm)	苞葉数(枚)
0	2.3 a ¹⁾	29.1 b	3.1 c	7.4 c	4.6 b	13.6 b
15	2.2 a	37.9 a	3.7 a	8.6 a	4.8 a	17.1 a
30	2.1 a	39.3 a	3.6 b	8.4 b	4.7 ab	17.4 a
60	2.2 a	39.1 a	3.5 b	8.2 b	4.6 b	17.1 a

1) 多重検定(Tukey-Kramer法)により同列の異符号間に5%水準で有意差あり(表2～表6も同様)

表IV-花-2 窒素施用濃度による暗期中断終了時の各部位における乾物重及び窒素含有量(9月15日)

N濃度(ppm)	地上部		根茎			貯蔵根	
	乾物重(g)	N含有率(%)	乾物重(g)	N含有率(%)	C/N	乾物重(g)	N含有率(%)
0	4.9 c ¹⁾	0.8 c	1.0 c	1.0 c	38.1	2.4 b	0.3 d
15	21.2 b	0.9 c	4.3 b	0.9 c	43.6	5.9 a	0.5 c
30	21.8 ab	1.4 b	4.5 b	2.0 b	19.2	3.3 b	0.9 b
60	24.8 a	1.6 a	6.0 a	3.0 a	13.0	3.6 b	1.4 a

表IV-花-3 長日期の窒素施用濃度の違いが黄化枯死後の各部位における乾物重及び窒素含有率に及ぼす影響

N濃度(ppm)	地上部		根茎		貯蔵根	
	乾物重(g)	N含有率(%)	乾物重(g)	N含有率(%)	乾物重(g)	N含有率(%)
0	7.6 d ¹⁾	1.0 a	6.2 c	3.7 a	6.4 b	1.2 a
15	27.3 c	0.7 c	15.3 b	3.5 a	19.8 a	0.9 a
30	32.9 b	0.9 b	22.1 a	3.2 a	21.7 a	1.1 a
60	38.2 a	0.9 b	24.9 a	3.2 a	20.8 a	1.1 a

表IV-花-4 長日期の窒素施用濃度の違いが開花数及び球茎数に及ぼす影響

N濃度(ppm)	開花数(本)	根茎数 ²⁾ (個)	乾物重比(貯蔵根/根茎)の貯蔵根乾物重(g/球)	
			乾物重比	根茎1球当たりの貯蔵根乾物重(g/球)
0	5.9 c ¹⁾	9.4 c	1.0	0.7
15	17.1 b	18.6 b	1.3	1.1
30	21.6 a	27.7 a	1.0	0.8
60	22.7 a	32.7 a	0.8	0.6

2) 分球後の根茎の横幅が1cm以上のものをカウントした

イ) 試験2 短日期における窒素施用濃度が切り花収量・品質及び地下部の生育に及ぼす影響

地上部が枯死（12月）した後の各部位の乾物重と窒素含有率を表IV-花-5に示した。根茎の乾物重は窒素施用濃度が高いほど重くなったが、貯蔵根の乾物重は15ppmが最も重くなり、60ppmが最も軽くなった。総開花数（表IV-花-6）は施用濃度による違いはなかった。施用濃度が低いほど根茎1球当たりの貯蔵根乾物重が増加しており、長日期と同様な傾向を示した。

表IV-花-5 短日期の窒素施用濃度の違いが黄化枯死後の各部位における乾物重及び窒素含有量に及ぼす影響

N濃度 (ppm)	地上部		根茎		貯蔵根	
	乾物重 (g)	N含有率 (%)	乾物重 (g)	N含有率 (%)	乾物重 (g)	N含有率 (%)
0	35.7 a ¹⁾	0.8 c	19.9 b	2.4 c	27.5 a	0.7 b
15	41.0 a	0.9 b	24.9 a	2.5 c	32.3 a	0.8 b
30	40.2 a	0.9 a	28.0 a	3.1 b	27.8 a	1.2 a
60	36.8 a	1.0 a	29.3 a	3.5 a	21.2 b	1.5 a

表IV-花-6 短日期の窒素施用濃度の違いが開花数及び球茎数に及ぼす影響

N濃度 (ppm)	開花数 (本)	根茎数 ²⁾ (個)	乾物重比 (貯蔵根 /根茎)	根茎1球当たり の貯蔵根 乾物重(g/球)
0	15.6 a ¹⁾	23.6 b	1.4	1.2
15	14.4 a	32.3 a	1.3	1.0
30	12.5 a	34.8 a	1.0	0.8
60	12.9 a	33.8 a	0.7	0.6

2) 分球後の根茎の横幅が1 cm 以上のものをカウントした

ウ) まとめ

窒素施用濃度は長日期、短日期とも貯蔵根肥大に影響を及ぼすことがわかった、切り花品質を維持しながら、収穫本数を確保するためには窒素が必要であるものの、過剰な施用は切り花品質及び貯蔵根肥大にとっては阻害要因となる。総合的に考えて長日期は窒素施用濃度30ppm、短日期は15ppmと長日期よりも控えた施肥をすることで、切り花生産と球根生産（貯蔵根肥大）を両立させることが可能である。

3 施肥基準 (1) 秋ギク(二度切り)

主要品種名 神馬
出荷時期 12月下旬～4月下旬
栽植密度 42,000 本/10a
目標収量 1作目 40,000 本/10a
 2作目 40,000 本/10a

主要作業

	7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
主要作業等							定植					消灯				収穫			整枝					消灯							収穫								
							電照									電照						短日処理																	
施肥							基肥		追肥1						追肥2						追肥1						追肥2												

施肥基準(1作目)

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥 9月上旬	21	20	21	
追肥1 9月下旬	14		14	分施する。
追肥2 11月中旬				
施肥合計量	35	20	35	

施肥基準(2作目)

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
追肥1 1月下旬	10		10	分施する。
追肥2 3月上旬				
施肥合計量	10		10	

施用上の留意点

- ・ 基肥は肥効調節型肥料を主体とし、二度切りを前提とした。
- ・ 追肥は、草丈20～30cmと消灯後15日頃行う。
- ・ 深耕により耕土を40cm以上とする。地下水位の高いところ、排水不良地では暗きょ排水設備を整備する。

(2) 秋ギク

主要品種名 神馬
 出荷時期 12月下旬
 栽植密度 42,000 本/10a
 目標収量 40,000 本/10a

主要作業

	7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主要作業等							定植					消灯						収穫																		
施肥							基肥		追肥1						追肥2																					

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	15	15	15	
追肥1	10	0	10	分施する。
追肥2				
施肥合計量	25	15	25	

施用上の留意点

- ・ 基肥は肥効調節型肥料を主体とする。
- ・ 追肥は、草丈20～30cmと消灯後15日頃行う。
- ・ 深耕により耕土を40cm以上とする。地下水位の高いところ、排水不良地では暗きょ排水設備を整備する。

(3) 夏秋ギク

主要品種名 精の一世
出荷時期 8月上旬
栽植密度 50,000 本/10a
目標収量 47,000 本/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主要作業等													定植			消灯						収穫														
													電照			短日処理																				
施肥													基肥						追肥																	

施肥基準

kg/10a

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	5月上旬	12	12	12	
追肥	7月上旬	8	0	8	
施肥合計量		20	12	20	

施用上の留意点

- ・ 基肥は肥効調節型肥料を主体とする。
- ・ 追肥は、消灯後15日頃行う。
- ・ 深耕により耕土を40cm以上とする。地下水位の高いところ、排水不良地では暗きょ排水設備を整備する。

(4) 夏秋小ギク(露地栽培・マルチ)

主要品種名 小窓(白)、ころく(白)、寿光(黄)、みちのく(黄)、千本桜、精ひなの(赤)
 出荷時期 8月
 栽植密度 12,000 本/10a
 目標収量 36,000 本/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
主要作業等										マルチ	定植	摘心										収穫																	
施肥							基肥(春施用)																								基肥(秋施用)								

施肥基準

kg/10a

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	3月中旬または11月中旬	25	15	25	春か秋のどちらかで1回施用。
施肥合計量		25	15	25	

施用上の留意点

- ・ 基肥は肥効調節型肥料など緩効性肥料を主体とする。
- ・ 水管理 pF1.5~2.2、1回のかん水量3~5mmとする。

(7) カーネーション(養液土耕栽培)

主要品種名 スタンダード：エクセリア、モモカ、ムーンライト
 スプレー：チカス、ミルクィーウェイ、ドリーミーブロッサム

出荷時期 10～5月出荷

栽植密度 20,000 本/10a

目標収量 120,000 本/10a

主要作業

	6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月										
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下								
主要作業等	定植			摘心			摘心																																					
施肥																																												

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
7月上旬～収穫終了まで	53	26	70	

施用上の留意点

- ・ 収穫終了時に、窒素肥料を残さないように、施肥を打ち切る。
- ・ カリ含量の多い有機物を施用するときは、カリ施用量を減量する。

(8) バラ(養液栽培・アーチング仕立て)

主要品種名 サムライ08, アヴァランチェ+
 出荷時期 周年出荷
 栽植密度 6,000 株/10a
 目標収量 120,000 本/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月										
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下								
一年目	主要作業等																																											
													定植						折り曲げ						折り曲げ						収穫						暖房							
一年目以降	施肥																																											
																						液肥期間																						
二年目以降	主要作業等																																											
																						収穫						暖房						冷房						暖房				
二年目以降	施肥																																											
																						液肥期間																						

培養液処方(愛知処方)

	成分濃度 (me/L)						
	N03-N	NH4-N	P	K	Ca	Mg	EC(標準)
冬用	12.5	1.3	3.0	5.5	7.0	2.0	1.6
夏用	11.0	1.0	3.0	5.0	6.0	2.0	1.2

施用上の留意点

- ・ 給液のECは冬季は1.4~1.8dS/m、夏季は1.0~1.5dS/mで管理する。必要以上に上げないように注意する。
- ・ CO₂施用など多収に向けた環境制御を行う場合は給液のECを標準値より高くする(冬用1.8~2.0dS/m、夏用1.4~1.6dS/m)

(9) トルコギキョウ

主要品種名 セレブリッチホワイト、ボヤージュ2型ライトピンク、レイナ2型ディープラベンダー、
出荷時期 1月～2月
栽植密度 33,000 本/10a
目標収量 30,000 本/10a

主要作業

	7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
主要作業等																																							
施肥																																							

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	8	10	8	
追肥	12		12	分施する。
施肥合計量	20	10	20	

施用上の留意点

- ・ 土壤中の肥料濃度が高いと、生育障害や立ち枯れ性病害誘発の原因となるため、緩効性肥料と液肥を組み合わせ、ECは0.4～0.7dS/m程度とする。
- ・ 育苗用土は、土壤消毒を行い、ECは、0.5dS/m以下で管理する。用土の各成分は、1リットル当たり100mg程度とする。
- ・ 前作の肥料が残り、無機態窒素濃度が高い場合、生ワラを0.5～1t/10a投入し、基肥は施用しない。
- ・ 発蕾期以降に窒素が効き過ぎると乱形花が発生しやすい。
- ・ 施肥量は品種及び作型によって変更させること

(10) ガーベラ(周年・少量培地耕)

主要品種名 シャルドネケーキ(白)、克蘭ベリーケーキ(ピンク)、バナナ(黄)、ポバン(オレンジ)
 出荷時期 9月～4月
 栽植密度 4,200 本/10a
 目標収量 100,000 本/10a

主要作業

	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
主要作業等	定植																																				
		収穫																																			
施肥	基肥																																				
		追肥																																			
		暖房																																			

施肥基準

kg/10a

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	5月上旬	10	5	10	
追肥	6月上旬～3月下旬	30	15	30	分施する。
施肥合計量		40	20	40	

施用上の留意点

- ・ 前作の肥料が残っている場合は基肥を減らす。定植時のECを0.6dS/m以下とし植え傷みを防ぐ。
- ・ 定植後の土壤中のECは、0.6～0.8dS/mlに維持するよう液肥等で分施する。窒素過多は花着きが悪くなる。

(12) アルストロメリア(加温栽培)

主要品種名 ミストラル(白)、ワンダースイート(ピンク)、パール(白グリーン)
 作型 地中冷却 春植え 灌水施肥栽培
 出荷時期 9月~5月
 栽植密度 1,400 本/10a
 目標収量 90,000 本/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
一年目	主要作業等															定植	収穫															暖房								
	施肥																追肥																							
二年目	主要作業等															切り戻し	収穫															暖房								
	施肥																追肥																							
三年目	主要作業等															切り戻し	収穫															暖房								
	施肥																追肥																							
四年目	主要作業等															改植	収穫															暖房								
	施肥																追肥																							

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
追肥	40	20	45	分施する。
施肥合計量	40	20	45	

施用上の留意点

- ・かん水同時施肥栽培とする。
- ・水管理 多水分を好むため、pF1.8を目安にかん水する。
- ・滞水に弱いため、50cm以上深耕する。地下水位の高いところや排水不良地は暗きょ排水の設備が必要である。

(13) カラー(3年据置)

主要品種名 ウェディングマーチ
 出荷時期 11月～5月
 栽植密度 3,300 株/10a
 目標収量 50,000 本/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月																							
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																					
一年目	主要作業等																																	7月			太陽熱消毒			9月			定植			11月			ビニル被覆								
	施肥																																	9月			基肥																				
二年目	主要作業等																																	3月									ビニル被覆									11月			ビニル被覆		
	施肥																																	3月			追肥1			5月			追肥2			7月			追肥3			9月			基肥		
三年目	主要作業等																																	3月									ビニル被覆									11月			ビニル被覆		
	施肥																																	3月			追肥1			5月			追肥2			7月			追肥3			9月			基肥		

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	10	4	10	
追肥1	16	6	16	分施する。
追肥2				
追肥3				
施肥合計量	26	10	26	

施用上の留意点

- ・水のかけ流し時期は施肥しない。
- ・1年目は太陽熱消毒で投入した石灰窒素を考慮し減肥する。

(14) デルフィニウム(灌水施肥栽培)

主要品種名 シネンシス系(スーパープラチナブルー、スーパーグランブルー)
 出荷時期 10月～6月
 栽植密度 12,000 株/10a
 目標収量 88,000 本/10a

主要作業

	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
主要作業等				電照開始			加温開始																		電照終了														
	収穫																																						
施肥				追肥1			追肥2									追肥3									追肥4														

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	15	15	15	
追肥1	20	10	25	分施する。
追肥2				
追肥3				
追肥4				
施肥合計量	35	25	40	

施用上の留意点

- ・基肥は、肥効調節型肥料を用いる。
- ・追肥は、開花後～抽台期を中心にかん水施肥する。

(15) スイートピー

主要品種名 ファーストレディー（ピンク）、キャサリン（紫）、シルビア（白）
 出荷時期 11月～4月
 栽植密度 7,000 株/10a
 目標収量 100,000 本/10a

主要作業

	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月											
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下									
主要作業等				は種			定植	摘心					収穫																																
施肥							基肥			追肥1			追肥2						追肥3																										

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥 9月中旬	10	10	10	
追肥1 10月上旬	15	5	20	分施する。
追肥2 11月中旬				
追肥3 2月上旬				
施肥合計量	25	15	30	

施用上の留意点

- ・ ECは、0.5dS/m以下にする。

(17) ハイブリッド・スターチス(3年据置)

主要品種名 オリオンナイト(紫)、ミネルバピンクスーパー(ピンク)、キノミルク(白)
 出荷時期 10月~6月
 栽植密度 3,000 株/10a
 目標収量 30,000 本/10a

主要作業

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月										
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下								
一年目	定植																																											
二年目	収穫																																											
三年目	収穫																																											

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	10	5	10	
追肥	20	10	20	分施する。
施肥合計量	30	15	30	

施用上の留意点

- ・ ECは、0.5dS/m以下にする。
- ・ 基肥は、有機配合または緩効性肥料を用いる。
- ・ 追肥は、IB化成、液肥などを用いる。

(18) ユリ(冷凍球を用いた周年栽培)

主要品種名 OTハイブリッド
 出荷時期 周年
 栽植密度 17,280 株/10a (プランター栽培)
 目標収量 17,280 本/10a

主要作業

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月														
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下												
主要作業等																																																
							1作3ヶ月程度、10日おきに定植で周年栽培																																									
施肥							定植時に基肥を施用																																									

施肥基準

kg/10a

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	定植時	8	8	8	
施肥合計量		8	8	8	

施用上の留意点

- ・ 緩効性肥料を用い施肥を行う。

(19) クルクマ

主要品種名 シャローム、チョコゼブラ、アイルージュ
 出荷時期 6月～10月
 栽植密度 5,000～5,500 球/10a
 目標収量 30,000 本/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
主要作業等				催芽処理			定植									収穫																		球根掘上					
施肥							追肥1									追肥2			追肥3			追肥4			追肥5														

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
追肥1	10	10	10	
追肥2	5	2	4	
追肥3	5	2	4	
追肥4	5	2	4	
追肥5	5	2	4	
施肥合計量	30	18	26	

施用上の留意点

- ・有機ペレット肥料を基準としたものである。
- ・定植前の除塩処理を行う。

(20) シクラメン(平坦地1)

主要品種名 F1品種, パステル系品種

かん水方法 手かん水 5号鉢

出荷時期 10月~12月

栽植密度 10,000 鉢/10a

目標収量 10,000 鉢/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
一年目	主要作業等																														は種						
	施肥																														暖房						
二年目以降	主要作業等																														3号鉢上げ	5号鉢上げ	出荷				
	暖房												遮光												暖房												
	施肥																														液肥期間	基肥	液肥期間	基肥	液肥期間	追肥1	追肥2

施肥基準

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
3号鉢 基肥	3月下旬	0.05 g/鉢	0.02 g/鉢	0.05 g/鉢	
5号鉢 基肥	6月中旬	0.2 g/鉢	0.1 g/鉢	0.2 g/鉢	
5号鉢 追肥1	9月中旬	0.4 g/鉢	0.1 g/鉢	0.9 g/鉢	
5号鉢 追肥2	10月中旬	0.4 g/鉢	0.1 g/鉢	0.9 g/鉢	

施用上の留意点

- ・3号鉢では、40~50mgN/Lの液肥をかん水時に施用するか、150mgN/Lの液肥を1週間に1回施用する。
- ・基肥の量は、用土に含まれる成分量で増減する。
- ・高温時の施肥は、過度に少なくすると出荷期の開花本数が少なくなるため、液肥で対応する。
- ・調整ピートモスをベースに保肥力、保水力があり通気性の良い用土を作成する。気相率は25~30%を目安とする。

(21) シクラメン(平坦地2)

主要品種名 F1品種, パステル系品種
 かん水方法 樋-ひも給水 5号鉢
 出荷時期 10月~12月
 栽植密度 10,000 鉢/10a
 目標収量 10,000 鉢/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月																									
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																										
一年目	主要作業等																														は	種																											
	施肥																														暖房																												
二年目以降	主要作業等																														3号鉢上げ			5号鉢上げ			遮光			出荷			暖房																
	施肥																														液肥期間			基肥			液肥期間			ひも給水																			
	暖房																														遮光																												

施肥基準

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
3号鉢 基肥	3月下旬	0.05 g/鉢	0.02 g/鉢	0.05 g/鉢	手かん水とする。
5号鉢	7月~9月下旬	20~25 mg/L	10 mg/L	40~50 mg/L	液肥濃度 5号鉢上げ後、樋-ひも 給水とする。
5号鉢	9月下旬以降	50~60 mg/L	20 mg/L	100~120 mg/L	

施用上の留意点

- ・ 3号鉢では、40~50mg/Lの液肥をかん水時に施用するか、150mgN/Lの液肥を1週間に1回施用する。
- ・ 基肥の量は、用土に含まれる成分量で増減する。
- ・ 高温時の施肥は、過度に少なくすると出荷期の開花本数が少なくなるため、液肥で対応する。
- ・ 調整ピートモスをベースに保肥力、保水力があり通気性の良い用土を作成する。気相率は25~30%を目安とす
- ・ 品種により液肥濃度を調整する。

(22) シクラメン(平坦地3)

主要品種名 F1品種, パステル系品種
 かん水方法 エブアンドフロー 5号鉢
 出荷時期 10月~12月
 栽植密度 10,000 鉢/10a
 目標収量 10,000 鉢/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
一年目	主要作業等																														は種					
	施肥																														暖房					
二年目以降	主要作業等																														出荷					
	施肥																														暖房					
	液肥期間																														エブ・アンド・フロー					

施肥基準

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
3号鉢	基肥	3月下旬	0.05 g/鉢	0.02 g/鉢	0.05 g/鉢
3号鉢	鉢上げ後	30~40 mg/L	10 mg/L	60~80 mg/L	液肥濃度 3号鉢上げ後からエブ・アンド・フロー管理とする。
5号鉢	7月~9月下旬	30~40 mg/L	10 mg/L	60~80 mg/L	
5号鉢	9月下旬以降	60~80 mg/L	30 mg/L	120~160 mg/L	

施用上の留意点

- ・ 基肥の量は、用土に含まれる成分量で増減する。
- ・ 高温時の施肥は、過度に少なくすると出荷期の開花本数が少なくなるため、液肥で対応する。
- ・ 給液間隔は、3~4日に1回を目安とする。
- ・ 調整ピートモスをベースに保肥力、保水力があり通気性の良い用土を作成する。気相率は25~30%を目安とする。
- ・ 品種により液肥濃度を調整する。

(23) シクラメン(平坦地4)

主要品種名 F1品種, パステル系品種

かん水方法 マット給水 3号鉢

出荷時期 10月~11月

栽植密度 50,000 鉢/10a

目標収量 50,000 鉢/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
主要作業等							は種									3号鉢上げ																							
									暖房																														
施肥												液肥期間				基肥																							

施肥基準

施用時期		N		P ₂ O ₅		K ₂ O		備考
基肥	6月中旬	0.2	g/L	0.06	g/L	0.4	g/L	
6月中旬~9月下旬		60~80	mg/L	20	mg/L	120~160	mg/L	1週間に1回かん注する場合の液肥濃度。
9月下旬以降		120~160	mg/L	40	mg/L	240~320	mg/L	液肥濃度は品種により調整する。

施用上の留意点

- ・液肥濃度は1週間に1回かん注する場合の濃度(100ml/鉢/週)。
- ・基肥の量は、用土に含まれる成分量で増減する。
- ・高温時の施肥は、過度に少なくすると出荷期の開花本数が少なくなるため、液肥で対応する。
- ・調整ピートモスをベースに保肥力、保水力があり通気性の良い用土を作成する。気相率は25~30%を目安とする。

(24) シクラメン(山間地)

主要品種名 F1品種
 かん水方法 樋一ひも給水 5号鉢
 出荷時期 10月～11月
 栽植密度 10,000 鉢/10a
 目標収量 10,000 鉢/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
一年目	主要作業等																														は種					
	施肥																														暖房					
二年目以降	主要作業等																														出荷					
	施肥																														暖房					
	液肥期間																														液肥期間					
	ひも給水																																			

施肥基準

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
3号鉢 基肥	3月中旬	0.05 g/鉢	0.02 g/鉢	0.05 g/鉢	1週間に1回かん注する場合の液肥濃度。液肥濃度は品種により調整する。
3号鉢	鉢上げ後	60～80 mg/L	20 mg/L	120～160 mg/L	
5号鉢	6月～9月中旬	60～80 mg/L	20 mg/L	120～160 mg/L	
5号鉢	9月中旬以降	120～160 mg/L	40 mg/L	240～320 mg/L	

施用上の留意点

- ・液肥濃度は1週間に1回かん注する場合の濃度(100ml/鉢/週)。
- ・基肥の量は、用土に含まれる成分量で増減する。
- ・高温時は生育が抑制されるが、過度に施肥量を少なくすると出荷時の開花本数が少なくなるため、適宜液肥を施用する。
- ・調整ピートモスをベースに保肥力、保水力があり通気性の良い用土を作成する。気相率は25～30%を目安とする。

(31) ポトス（施設栽培1）

主要品種名 ゴールデンポトス、ライム、マーブルクイーン、エンジョイ
 出荷サイズ 3号苗
 出荷時期 3月
 栽植密度 30,000 鉢/10a
 目標収量 24,000 鉢/10a

主要作業

	12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主要作業等		挿し芽										出荷																								
									遮光																											
施肥						基肥																														

施肥基準

g/鉢

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	1月下旬	0.15	0.08	0.15	
施肥合計量		0.15	0.08	0.15	

施用上の留意点

- ・ 冬季は最低20℃を確保する。
- ・ 出荷鉢に直接挿し芽する。
- ・ 上記以外に葉色をみて液肥で追肥する。

(32) ポトス（施設栽培2）

主要品種名 ゴールデンポトス、ライム、マーブルクイーン、エンジョイ
 仕立て方法 5号つり
 出荷時期 4月～5月出荷
 栽植密度 12,000 鉢/10a
 目標収量 10,000 鉢/10a

主要作業

	12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主要作業等		挿し芽														出荷																				
							遮光																													
施肥					基肥					追肥																										

施肥基準

g/鉢

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	1月下旬	0.25	0.13	0.25	
追肥	3月上旬	0.75	0.38	0.75	
施肥合計量		1	0.51	1	

施用上の留意点

- ・ 冬季は最低20℃を確保する。
- ・ 元土に肥料成分がある場合は、第1回目の追肥量を控える。
- ・ 上記以外に葉色をみて液肥で追肥する。

(33) シンビジウム(山上げ促成栽培)

主要品種名 アイスカスケード、福娘、インザムード、夢のとびら
 出荷サイズ 6号鉢
 出荷時期 11月～12月
 栽植密度 4,500 鉢/10a
 目標収量 4,500 鉢/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月							
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
一年目	CP苗			3号鉢上			4号鉢上			暖房			遮光			暖房																									
				基肥																																					
二年目	6号鉢上			暖房			遮光			暖房																															
				基肥																					追肥																
三年目	山上げ			暖房			遮光			出荷			暖房																												
				追肥																																					

施肥基準

g/鉢

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
1年生株 (3号鉢)	0.7	0.6	0.6	中型種の施肥量。
2年生株 (4号鉢)	2	1.6	1.6	
開花株 (6号鉢)	8	6.4	6.4	中型種の施肥量。3回に分施する。
開花株 (6号鉢)				
開花株 (6号鉢)				

施用上の留意点

- ・ 施肥配分は、肥効調節型肥料を使用した場合のもの。
- ・ 大型種10に対し、中型種6、小型種4の割合を目安とする。
- ・ 用水としては、葉枯症を防ぐため、ナトリウム20mg/L以下とする。

(34) デンドロビウム(山上げ促成栽培)

主要品種名 リセ、トキメキ、プリティガール、ユウナ

出荷サイズ 5号鉢

出荷時期 11月～3月

栽植密度 4,500 鉢/10a

目標収量 4,500 鉢/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月											
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下									
一年目	CP苗									2号鉢上																																			
	暖房									遮光									暖房																										
一年目				液肥期間						基肥																																			
										基肥																																			
二年目							6号鉢上																																						
	暖房									遮光									暖房																										
二年目							基肥																																						
										追肥									出荷																										
三年目																																													
	暖房									遮光									暖房																										
三年目																																													
	出荷																																												

施肥基準

g/鉢

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
1年生株 (2号鉢)	4月中旬	0.7	0.6	0.6	中型種における有機質主体の施肥量。
2年生株 (4号鉢)	9月中旬	1	0.6	1	
開花株 (6号鉢)	3月中旬	1.5	1	1.5	
開花株 (6号鉢)	8月上旬	1.5	1	1.5	

施用上の留意点

【施肥上の留意点】

- ・ 施肥配分は、肥効調節型肥料を使用した場合のもの

(35) ファレノブシス(リレー栽培)

主要品種名 白 (V3), ピンク, アマビリス他
 仕立て方法 3.5号鉢苗を8号鉢に3株寄せ
 出荷時期 周年出荷
 栽植密度 27,000 鉢/10a (3.5号鉢苗)
 目標収量 9,000 鉢/10a (8号鉢)

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主要作業等	周年出荷																																			
	遮光																																			
施肥	液肥期間																																			

施肥基準

施用時期		N		P ₂ O ₅		K ₂ O		備考	
液肥	1月～12月	50-100	mg/L	50-100	mg/L	50-100	mg/L		

施用上の留意点

- ・ 輸入苗によるリレー栽培。
- ・ 苗入室後、基肥施用。
- ・ かん水時に、100mgN/Lを数回に1回、あるいは30mgN/L程度を毎回与える。

(37) マリーゴールド

主要品種名 ポナンザシリーズ
 出荷サイズ 3号ポット
 出荷時期 5月
 栽植密度 75,000 鉢/10a
 目標収量 60,000 鉢/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主要作業等				は種																																
				ポット上げ									出荷																							
	暖房																																			
施肥				基肥																																
液肥期間																																				

施肥基準

施用時期		N		P ₂ O ₅		K ₂ O		備考
基肥	2月下旬	0.2	g/鉢 ¹ ツト	0.1	g/鉢 ¹ ツト	0.2	g/鉢 ¹ ツト	
液肥	3月上旬～5月上旬	100	mg/L	50	mg/L	100	mg/L	

施用上の留意点

- ・ 基肥は緩効性肥料を用い、用土に含まれる成分量で増減する。
- ・ ポット上げ1か月後、生育を見て液肥を追肥する。

(38) アンズリウム

主要品種名 バンビーノレッド、ピンクチャンピオン
 出荷サイズ 6号鉢 (7号以上の場合は、寄せ植えを行い、3年目に出荷)
 出荷時期 5月～8月
 栽植密度 8,000 鉢/10a
 目標収量 8,000 鉢/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
一年目	主要作業等																																			
	組織培養苗																																			
一年目	施肥																																			
	基肥																																			
二年目	主要作業等																																			
	出荷																																			
二年目	施肥																																			
	追肥3																																			

施肥基準

g/鉢

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	2.0	2.8	2.3	
追肥1	2.0	2.8	2.3	
追肥2	2.0	2.8	2.3	
追肥3	2.0	2.8	2.3	

施用上の留意点

- ・施肥配分は、肥効調節型肥料を使用した場合のもの。
- ・用水としては、葉枯症を防ぐため、ナトリウム20mg/L以下とする。

(39) ホオズキ

主要品種名 丹波ほおずき
 出荷時期 8月出荷
 栽植密度 10,000本/10a
 目標収量 10,000本/10a

主要作業

	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主要作業等										摘心						摘心						収穫									定植					
施肥																												基肥								

施肥基準

kg/10a

施用時期	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	20	20	20	
追肥				必要ならば追肥を行う。
施肥合計量	20	20	20	

施用上の留意点

- ・ 基肥主体にし有機質肥料または緩効性肥料を施用し、追肥は行わない。
- ・ 窒素過多は実飛びや着色不良の原因となるので注意する。

(40) ケイトウ

主要品種名 麗炎(れいえん), 周防(すおう)
 出荷時期 7~9月出荷
 栽植密度 50,000本/10a
 目標収量 35,000本/10a

主要作業

	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
主要作業等	7月出荷				は種										収穫																						
	8月出荷							は種							収穫																						
	9月出荷													は種							収穫																
施肥	基肥																																				

施肥基準

kg/10a

施用時期		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	3月上旬	3	3	3	
施肥合計量		3	3	3	

施用上の留意点

- ・多肥になると茎葉が肥大して品質低下するので注意する。前作がある場合は肥料はいらない。
- ・カリウムが欠乏すると、下葉が枯れあがるので、生育状況を見て必要に応じて追肥する。